

Exercise: A Fundamental Component of Lifestyle Management in Obesity-Related Liver Disease

著者	呉 世昶
著者別名	OH Sechang
その他のタイトル	肥満関連肝疾患の改善における運動実践の有用性
学位授与大学	筑波大学 (University of Tsukuba)
学位授与年度	2013
報告番号	12102甲第7072号
URL	http://hdl.handle.net/2241/00122723

氏名（本籍）	呉 世昶（韓国）
学位の種類	博士（スポーツ医学）
学位記番号	博甲第 7072 号
学位授与年月	平成 26 年 3 月 25 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
審査研究科	人間総合科学研究科
学位論文題目	Exercise: A Fundamental Component of Lifestyle Management in Obesity-Related Liver Disease (肥満関連肝疾患の改善における運動実践の有用性)
主査	筑波大学教授 医学博士 正田 純一
副査	筑波大学教授 教育学博士 田中喜代次
副査	筑波大学教授 博士（体育科学） 前田 清司
副査	筑波大学教授 医学博士 大森 肇

論文の内容の要旨

- (目的) 本論文では、肥満関連肝疾患の改善における運動実践の有用性を明らかにすると同時に、肥満関連肝疾患の病態改善と進展予防を目指した最適な運動量の探索を目的とした。
- (対象と方法) 対象者は中年肥満男性とした。課題 1 では肥満関連肝疾患における運動単独療法の効果の検討を、課題 2 では肥満関連肝疾患の改善に対する食事療法に運動療法を加える意義の検討を、課題 3 では肥満関連肝疾患における最適な身体活動量の検討を行った。各課題において、3 ヶ月間の介入前後における脂肪肝および肝病態因子の変動を調査した。
- (結果) 運動実践は体重の減少が少なくても、炎症病態や酸化ストレスの改善を通して肝脂肪や肝病態の抑止に大いに効果的であることが示された。この改善効果は週 250 分以上の中高強度の身体活動量と強く関連することが明らかになった。
- (考察) 本研究により、肥満関連肝疾患患者の運動実践の有用性に関する科学的エビデンスの蓄積が可能となり、運動実践は食事療法と同様に肥満関連肝疾患の病態改善と進展予防に重要であることが明らかとなった。このことから、肥満関連肝疾患

の改善には、肥満を中心に据えた食習慣の管理とともに、運動を積極的に実施する必要があると考えられる。

審査の結果の要旨

(批評) 本博士論文は、運動実践における肥満関連肝疾患の予防と改善について検討し、その改善効果を明らかにしようとしたものである。本研究において、肥満関連肝疾患患者の運動の有用性に関する科学的エビデンスの蓄積と共に、最適な運動強度や運動量を提案した点で研究内容の新規性・オリジナリティが高い。一方で本研究における全体的なメッセージがやや不十分であるとの批評もあった。今後においては運動による代謝改善作用と疾病予防との間の分子メカニズムを詳細に解明していくことを重要な課題とする。

平成25年12月25日、学位論文審査委員会において、審査委員全員出席のもと論文について説明を求め、関連事項について質疑応答を行い、最終試験を行った。その結果、審査委員全員が合格と判定した。

よって、著者は博士(スポーツ医学)の学位を受けるのに十分な資格を有するものと認める。